

Title	センター長就任にあたって
Author(s)	松田, 治和
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1990, 77, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65876
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

センター長就任にあたって

松田 治和

本年3月に前センター長 山田朝治先生が停年退官された後を受けまして、4月からはからずもセンター長を仰せつかることになりました。本センターが今日まで発展してきましたのは、歴代センター長をはじめ学内外関係各位のご努力とご協力のおかげであります。私も微力ながら本センターの発展に寄与できるよう、精一杯頑張っていきたいと思っております。

最近、大型計算機センターの役割が多様化し、従来から行っている大規模計算に対する超高速計算機能の提供だけでは十分ではなくなり、学術情報の蓄積・提供のためのデータベース機能、各所に分散する多種類の機器の機能を効率よく利用するための構内・学内・広域ネットワーク・システムの構築などが不可欠になってきております。また、マルチ・メディア、人工知能などのような技術に対しても考えておく必要があると思われまます。

大規模計算につきましては、スーパーコンピュータを早急により高速なものに更新する必要があることは申すまでもありません。世界の最先端技術で、高速の計算機なしでは推進し得ない分野があまりもたくさんあります。しかし、マスコミで報道されているような種々の事情によりまして、簡単には更新できない状態も考えられます。この問題に対しましては、できる限りの努力をしたいと考えておりますので、ユーザの方々もご理解いただき、ご協力をお願い致します。

データベースにつきましては、センターではユーザが開発された約10種のデータベースの他に、BIOSISを提供しております。これらは今後とも重要なサービス分野ですので、一層の充実を図りたいと考えております。

ネットワークにつきましては、学内ネットワーク ODINS の予算要求を推進して参りますが、今後、特にネットワークからのセンターの利用という面について考えていく必要があるでしょう。ネットワークによって、センターの利用形態が大きく変わる可能性もあります。

いずれにしても、本センターはさまざまな分野の研究者の方々に、常に最高レベルの計算機システム(ソフトウェアも含めて)を利用して頂けるようにすることが至上の条件であります。現在の客観情勢は、前述のように必ずしも安易ではありませんが、できる限りの努力をしていきたいと考えておりますので、今後ともユーザおよび関係各位の一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。